

○ 草の根パートナー型

平成17年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	ケニア
2. 事業名	カジアド県イシニヤ地区における、草の根レベルの地域住民に対するキャパシティー・ビルディングを基盤とした有機農業技術と貯水池建設
3. 事業の背景と必要性	2003年から続いている干ばつで、ケニアは深刻な水不足に陥り、農作物の収穫は例年の20%以下という状態である。（平成17年5月の在ケニア大使館の情報による）。人々は干ばつによる食料不足と精神的ダメージによって虚弱体質となり、地域特有病にかかりやすくなっている。今も約230万人の人々に影響を与え、多くの死者も出ている。発育不足の子供の割合は、幼児人口で6%から30%に増え、栄養失調による免疫力低下で死亡にいたるケースも多く、現在、160万人の成人と42万人の児童が食料不足などで苦しんでいる状況である。同国カジアド県のプロジェクト対象である12カ村には約1万人が住んでおり、同地域の住民（マサイ族）は現在、水不足や低教育、無収入の状態にある。これらの状況の改善の為に、カジアド県において農業技術移転を実施し、多くの地域住民に対し、コミュニティ開発へ参加する意欲と意識変化を与え、自立と貧困削減が出来るように支援することが求められている。
4. 事業の目的	イシニヤ地区12カ村の住民に収入向上の為に農業研修や様々な研修が行われ、自立発展のモデル事業となる
5. 対象地域	カジアド県イシニヤ郡イシニヤ地区の12カ村 ILPOLOSAT : Naserian, Ilpolosat, Emamparaswai, Osewan, Lenchani, Emboloi Enkirigirri : Olmoti, Lema, Enkirigirri, Olmeirru, Olepdos, Noosuyian
6. 受益者層	キャパシティー・ビルディング： 直接受益者 415名（リーダー対象30名 住民対象360名地域発展メンバー25名） 間接受益者 20名 農業研修・貯水池建設： 直接受益者360名 間接受益者約530名
7. 活動及び期待される成果	様々なトレーニングにより、イシニヤ地区で自立発展活動をする住民が増える。農業研修後の農民の収入が増える。貯水池建設などを通して、限られた水資源の確保・有効利用が可能となる。以上、大きく分けて3つの活動を行うことにより、持続可能な地域開発が可能になる。
8. 実施期間	2006年5月～2009年3月（2年11ヶ月）
9. 事業費総額	49,231千円（予定）
10. 事業の実施体制	【本部】ICAジャパン（ICA文化事業協会）（5名） 【カウンターパート】ICAケニア（7名）
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 ICA文化事業協会
2. 活動内容	ICA文化事業協会は草の根レベルの住民が積極的に地域開発に参加してこそ、持続可能な発展が可能であるという信念に基づいて、住民参加の地域総合開発を行っている。